

Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール

ご使用の手引き

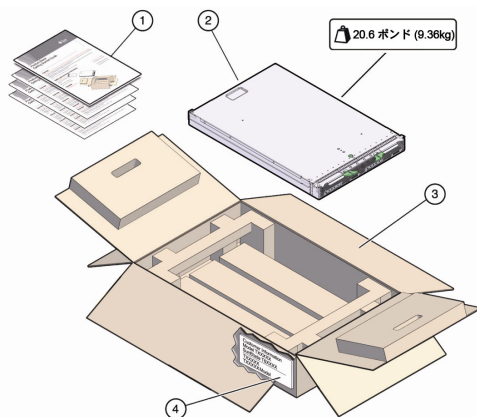
このマニュアルでは、サポートされているシャーシにサーバーモジュール (ブレード) を取り付け、初めて電源を入れるために最小限必要な手順について説明します。

Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールは、デュアルノードブレードです。これは、サーバーモジュールが、ブレード格納装置内の 1 つのマザーボードに 2 つの演算ノード (ノード 0 とノード 1) を備えていることを示します。2 つのノードは同一で対称型ですが、それぞれが完全に独立したサーバーとして機能します。

設置に関する詳細情報については、Oracle Web サイトから入手できる『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール設置マニュアル』を参照してください。このシステムに関するドキュメントのリストについては、このドキュメントの最後にある「[この製品のドキュメント](#)」を参照してください。

出荷キットの内容

Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールには、使用する構成のために注文したコンポーネントと安全に関するドキュメントが付属しています。



各部の説明

- | | |
|---|-----------|
| 1 | ドキュメント |
| 2 | サーバーモジュール |
| 3 | 発送箱 |
| 4 | 出荷ラベル |

ドキュメントおよびメディアキット

ドキュメントおよびメディアキットは、注文が可能なオプションです。印刷版の設置マニュアル、Tools and Drivers CD/DVD、および SunVTS CD/DVD が含まれています。ドキュメントおよびメディアキットは、パーツ番号 (X6275M2-X-DOCKIT) を使用していつでも注文できます。

このドキュメントで後述するように、ご使用のサーバーに関するすべての最新ドキュメントとソフトウェアを Web サイトからダウンロードできます。

オプションのコンポーネントの取り付け手順については、『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールサービスマニュアル』を参照してください。オプションのコンポーネントの完全な一覧については、次の Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール製品のページを参照してください: <http://www.oracle.com/goto/x6275m2>

サポートされているハードウェア環境を確認する

このドキュメントのリリース時点では、サーバーモジュールは次のハードウェア環境でサポートされます (最新情報については、Oracle Web サイトにあるサーバーモジュールのドキュメントを参照)。

サーバーモジュール	サポートされているブレードシャーシ	サポートされている Network Express Module (NEM)
Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール (1GbE) (X6275M2-BB) 下記の「注」を参照。	<ul style="list-style-type: none">PCIe 2.0 ミッドプレーン搭載 Sun Blade 6000 モジュラーシステム (CMM ILOM ファームウェアの最低要件: シャーシソフトウェアリリース 3.2 付属の 3.0.10.15)	<ul style="list-style-type: none">Sun Blade 6000 10 1GbE Pass-Thru NEM (X4250A)Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE M2 NEM (X4338A)Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE NEM (X4238)Sun Blade 6000 Multi-Fabric NEM (X4212A)
Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール (10GbE) (X6275M2-CB) 下記の「注」を参照。	<ul style="list-style-type: none">PCIe 2.0 ミッドプレーン搭載 Sun Blade 6000 モジュラーシステム (CMM ILOM ファームウェアの最低要件: シャーシソフトウェアリリース 3.2 付属の 3.0.10.15)	<ul style="list-style-type: none">Sun Blade 6000 Ethernet Switched 24p 10GbE NEM (X2073A)

注: サーバーモジュールでは、NEM のネットワーク部分の使用だけをサポートしています。NEM の SAS 部分を使用することはできません。

▼サーバーモジュールをシャーシに挿入する方法

1. Sun Blade 6000 モジュラーシステムシャーシの電源が入っていることを確認します。

シャーシの電源が入っている場合、ファンが動作し、OK/電源 LED が緑色に常時点灯します。シャーシや NEM に障害が発生していないことを確認します (オレンジ色の保守要求 LED とログファイルを確認)。障害が発生している場合は、サーバーモジュールを取り付ける前に解決する必要があります。

2. シャーシの前面で、サーバーモジュールを挿入するスロットを特定し、そこからフィルターパネルを取り外します。

フィルターパネルの取り外しレバーでアームハンドルの両端をつまんでロックを外し、レバーをオープン位置まで外側に回転させて、フィルターパネルを取り出します。

3. 両方のサーバーモジュール取り外しレバーを開き、取り外しレバーが右側にくるようにサーバーモジュールを垂直に置きます。

4. サーバーモジュールをスロットに止まるまで押し込み、シャーシ前面と同じ高さになるようにします。

5. 取り外しレバーの両方を回してサーバーモジュールと同じ高さになるようにはめ込み、サーバーモジュールをシャーシにロックします。

挿入すると、両方のサーバーモジュールノードのサービスプロセッサ (Service Processor, SP) にスタンバイ電源が供給されます。

注 - ノード SP のブートには数分かかる場合があります。ノード SP のブート中には、OK/電源 LED がすばやく点滅します (125 ミリ秒オン、125 ミリ秒オフ)。

6. 各サーバーモジュールノードの電源が正常に投入され、スタンバイモードになったことを確認します。

ノード SP がブートすると、OK/電源 LED はスタンバイ点滅になります (0.1 秒オン、2.9 秒オフ)。スタンバイ点滅状態は、ノード SP の電源が正常に投入され、通常動作の準備ができていることを示します。

注 – シャーシ電源が不足している場合、サーバーモジュールの OK/電源 LED はオフのままになります。トラブルシューティングを行うには、Integrated Lights Out Manager (ILOM) のログメッセージを調べて、サーバーモジュールに電源投入の権限があるかどうかを確認します。ログを表示する方法については、ILOM 3.0 のドキュメントを参照してください。シャーシ内のコンポーネントの電源投入に関する情報については、シャーシのドキュメントを参照してください。

▼サーバーモジュールノードの電源投入と電源切断の方法

1. サーバーモジュールノードに全電力を供給するには、次の操作を実行します。

- a. ノードのフロントパネルにある OK/電源 LED がスタンバイ点滅状態であることを確認します。
スタンバイ点滅状態では、各のノードの OK/電源 LED が点滅します (0.1 秒オン、2.9 秒オフ)。
- b. 金属製でない先の尖ったものを使用して、ノードのフロントパネルにある埋め込み式の電源ボタンを押してから離します。
電源が正常に供給されると、フロントパネルのノードの OK/電源 LED が緑色に常時点灯し、ノードホストの通常動作の準備ができていることを示します。

2. サーバーモジュールノードの電源を切断するには、次のいずれかの方法を使用します。

- 正常な停止 – 金属製でない先の尖ったものを使用して、サーバーモジュールのフロントパネルにある電源ボタンを押してから離します。ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) が有効な OS では、この操作により適切な順序で OS シャットダウンが実行されます。
- 即時停止 – 電源ボタンを 4 秒間押し続けると、主電源が切れてスタンバイ電源モードになります。

▼サーバーモジュールノードの ILOM を設定する方法

ここに示す手順は、シャーシ監視モジュール (Chassis Monitoring Module、CMM) の Ethernet 管理ポートへのアクティブなネットワーク接続があることを前提としています。この前提条件を満たしていない場合は、シャーシのドキュメントを参照して CMM ILOM を設定してください。

ブレードをシャーシに接続すると、CMM ILOM インタフェースを使用してノードのサービスプロセッサ (SP) にアクセスできます。ノードの SP の IP アドレスを取得すると、ノードの ILOM に直接アクセスできます。

1. CMM ILOM にログインします。

- Web インタフェースを使用して ILOM にアクセスする場合、ブラウザに CMM ILOM の IP アドレスを URL として入力します (例: <http://129.144.82.26>)。次に、管理者特権のある CMM ILOM ユーザーアカウントの名前を使用してログインします。
- コマンド行 (CLI) を使用して ILOM にアクセスする場合、端末ウィンドウを開き、管理者特権のある CMM ILOM ユーザーアカウントの名前と CMM ILOM の IP アドレスを使用して Secure Shell (SSH) 接続を確立します (例: `ssh username@129.144.82.26`)。

2. 各ノードの SP の IP アドレスを取得します。

- Web インタフェースからは、ブレードノードの「Configuration」->「Network」タブに移動します。
- CLI からは、次のコマンドを入力します。 **show /CH/BLx/NODEy/SP/network**
x はシャーシのブレードスロット (0-9) を表し、y はサーバーノード (0 または 1) を表します。

3. 各ノード SP のネットワーク構成を確認します。

DHCP (デフォルト) を使用することも、静的 IP アドレスを設定することもできます。

サーバーの ILOM の設定についての詳細は、『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール設置マニュアル』を参照してください。ILOM を使用して Oracle システムを管理する方法については、次のサイトにアクセスしてください: <http://www.oracle.com/goto/ilom>

ファームウェアの更新

システムでは利用可能な最新のファームウェアを実行することをお勧めします。最新のファームウェアは、オプションのドキュメントメディアキットに付属の Tools and Drivers CD/DVD から入手するか、Web からダウンロードすることができます。次の Web サイトにあるバージョンの方が最新である場合があります: <http://www.oracle.com/technetwork/systems/patches/firmware/release-history-jsp-138416.html>

ファームウェアの更新についての詳細は、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール』を参照してください。

オペレーティングシステムとドライバのインストール

サポートされている Solaris、Linux、または Windows オペレーティングシステムを内部ストレージまたは外部接続ストレージにインストールできます。サーバーでオペレーティングシステムが適切にサポートされるようにするには、サーバー固有の最新のパッチまたはドライバをインストールする必要があります。

次の表に、オペレーティングシステムのインストールに関する追加のリファレンスを示します。

オペレーティングシステム	インストールドキュメント	パッチとドライバに関する情報
Oracle Solaris 10 OS	<i>Sun Blade X6275 M2 Server Module Oracle Solaris OS Installation Guide</i>	http://sunsolve.sun.com
Linux	<i>Sun Blade X6275 M2 Server Module Linux OS Installation Guide</i>	http://wikis.sun.com/display/SystemsComm/Sun+Blade+System+x86+Blade+Downloads
Oracle VM	<i>Sun Blade X6275 M2 Server Module Oracle VM OS Installation Guide</i>	http://wikis.sun.com/display/SystemsComm/Sun+Blade+System+x86+Blade+Downloads
Windows	<i>Sun Blade X6275 M2 Server Module Windows OS Installation Guide</i>	http://wikis.sun.com/display/SystemsComm/Sun+Blade+System+x86+Blade+Downloads

ハードウェアの保証およびソフトウェアサービスプラン

ハードウェアの保証については、<http://www.sun.com/service/warranty/index.jsp> を参照してください。

ソフトウェアサービスプランについては、<http://www.oracle.com/support/premier/index.html> を参照してください。

システムに適したサービスを受けるために、サーバーモジュールのシリアル番号が必要になる場合があります。システムのシリアル番号は、システムに付属の Customer Information Sheet やサーバーモジュールの取り外しアームで確認するか、または ILOM 3.0 のドキュメントに記載されている ILOM **show /SYS** コマンドを使用して確認します。

この製品のドキュメント

次の表に、新しいシステムを設置する際の作業順序と同様の順序でドキュメントを示します。左側の作業について、右側に示した対応するドキュメントを参照してください。すべてのドキュメントの最新バージョンは、次の Oracle ドキュメント Web サイトから入手できます: <http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.x6275m2#hic>

ドキュメントの翻訳版を入手するには、Web サイトで言語を選択します。

作業	ドキュメントの種類
安全のための情報を確認する。	『Sun Blade X6275 M2 Server Module Safety and Compliance Guide』 『Important Safety Information for Sun Hardware Systems』
既知の問題および回避方法を確認する。	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールご使用にあたって』
サーバーのケーブルを接続して電源を投入する。サービスプロセッサに接続し、ネットワーク設定を構成する。	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール設置マニュアル』
ファームウェアの更新、アラートの監視、リモートアクセスとリダイレクトの設定、およびコンポーネントのステータスとイベントログの表示を行う。	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュール』
ハードウェアコンポーネントの削除および交換。BIOS 設定のカスタマイズ。	『Sun Blade X6275 M2 サーバーモジュールサービスマニュアル』
サーバーの問題のトラブルシューティングと切り分けを行う。	『Oracle x86 サーバー診断ガイド』

Copyright © 2010, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.



Part No. 821-3603-10, Revision A
2010 年 12 月